



KEN-KYO.COM

118

2024



北見建設業協会 R6・12・25 発行



12月の動向

12月 4日(水) 北見冬まつり実行委員会
12月 16日(月) 中小企業振興委員連絡会議

12月23日(月) 第11回 理事会 14:00 終了

年末年始休館日

12月28日(土)～1月5日(日)

月下独酌

▼年が明けて早々、今後3年間で100億以上の収入不足が生ずることが明らかになった。北見市は11月、年間30億円の一般財源を縮減する財政健全計画アクションプランを発表した。以前より厳しい状況は想像していたが、啞然とするばかりだ。▼予算は収支のバランスで成り立つもの。足りない予算は基金からの取り崩しで帳尻を合わせていたようだ。とはいえ基金もいずれはなくなることはわかっていたはずだ。こんな事態になったのも誰もが見たくないものには目をそらせてきたからだ。また平成の大合併から十数年が経つ。本来施設などを集約して経費の削減を図り、都市機構を高め地域の活性化を図る目的であったはずだが、何一つその道筋を立てらなかったことも大きな要因だ。▼アクションプランを見ても、それほど重要度の高くない事業や施設の見直し、廃止と、とりあえず数字を合わせただけで何の展望も見えない。こんな健全化とは言わない。本来もっと切り込まなければならないところが沢山あるはずなのにどうして目をつむる。▼先日市役所のエレベーター前のプレートを改めて眺めてみたが、この課何やるところ?こんな課必要あるの?と思う課が目にとまった。▼この危機をチャンスと捉え、今後5年10年先を見据え、組織を再構築してスリム化を図り、少数精鋭で機能本位の「再生プラン」を本気で考えた方がいい。腹の足しにならない課なんていない。市政もAIに取って代わる時代がそこまで来ているのだから。

(郷記)



Kensetsu News

2024/11/26 政府経済対策の建設業関連施策／建設Gメン強化前倒し、重層構造調査に着手

【建設工業新聞 11月 26日 1面記事掲載】

政府が22日決定した総合経済対策では建設業関連施策も多く盛り込まれた。賃上げ環境の整備の一環で、第3次担い手3法の着実な施行と周知徹底を明記。国土交通省が2025年度予算の概算要求で上げたメニューの一部を前倒しする形で、重層下請構造の実態調査や「建設Gメン」の効率的な運用への体制強化に着手する。中央建設業審議会（中建審）のワーキンググループ（WG）で「労務費に関する基準（標準労務費）」の議論が進む中、並行して適正な見積もりの普及方策も内部で検討する。

概算要求では建設業界に特有の重層化の実態を定量的に把握する目的で調査費用を計上していた。調査結果を政策立案の参考とし、適正な請負構造などを判断できる指標をつくることも視野に入れる。

建設Gメンの体制強化は、その活動をサポートする「補助員」の民間委託や、現場からの通報の精査・優先順位付けなどで「仕分け」を行うシステムの構築などを概算要求で上げており、その一部に予算配分される予定だ。

中建審のWGでは標準労務費の実効性確保に向け、それに基づく見積もりを業界慣行とする方向で検討が進む。WGと、別途設置する職種別の意見交換で必要な対応を検討しつつ、関連調査などを並行で進める。

公共調達でコスト増加分が適切に転嫁される環境をつくるため、年内にも最低制限価格制度や低入札価格調査制度の運用実態を調査し、運用改善を検討するとも明記した。公共調達全般にわたる取り組みとして国交省以外の省庁が主導的に進めるとみられ、工事・業務への影響も注視される。

経済対策の裏付けとなる24年度補正予算案の規模は13・9兆円。柱別では▽日本経済・地方経済の成長＝5・8兆円▽物価高の克服＝3・4兆円▽国土強靱化など国民の安心・安全の確保＝4・8兆円。

2024/12/13 国交省／直轄工事・業務のWLB認定加点、25年度にも全案件に拡大

【建設工業新聞 12月 13日 1面記事掲載】

国土交通省は直轄工事・業務の入札時にワーク・ライフ・バランス（WLB）関連の認定取得企業を加点評価する措置を2025年度にも全面展開する。総合評価方式と企画競争方式（プロポーザル方式を含む）を活用するすべての発注案件で運用を開始する予定。18年度の導入以降、規模の大きな工事から段階的に適用対象を拡大しており、その最終ステップとなる。

加点評価の仕組みは16年施行の女性活躍推進法を踏まえ導入。▽女性活躍推進法に基づく「えるぼし認定」▽次世代育成支援対策推進法に基づく「くるみん認定」▽若者雇用促進法に基づく「ユースエール認定」のいずれかを取得している企業に対し1点加算を標準としている。各認定制度の段階・ランクに関係なく、加点幅は一律に設定している。

直轄工事・業務では当初、一般土木、建築のA等級工事の一部に限って適用。24年1月には加点対象を一般土木、建築のA・B等級工事まで拡大した。その1年後を目安に全案件での導入を目指す方針をあらかじめアナウンスし、業界団体を通じ建設会社に認定取得の準備を推進するよう働き掛けてきた。

既に建設業団体や学識者が参加する会合で、加点措置の全面展開について説明している。参加者からは、各認定の取得に時間を要するため、実際の運用までのスケジュールを早めに示すよう要望があった。地方の中小建設会社にとって認定取得のハードルが高いことを懸念する声もあった。例えばB等級工事でC等級の企業の入札参加を認める「B+C」ではB等級の企業に有利に働く可能性がある。国交省はこうした点も踏まえ、配点の在り方などを検討していく考えを示す。



仕事の手を休め、リフレッシュしては・・・(第118号)

◆国語の問題

問題1 次の口に漢字を一文字入れて熟語を完成しなさい。

合	
意	鑑
柄	

延	
面	身
針	

姑	
吐	吹
災	

今	
早	夏
婚	

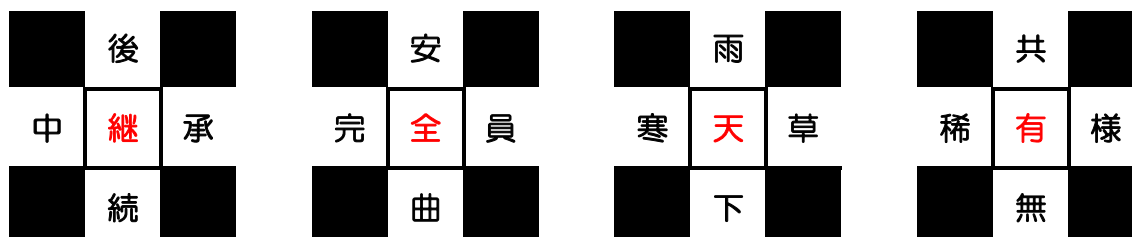
問題2 次の漢字を読みなさい。

- ・肉汁()
- ・灰汁()
- ・続柄()
- ・月極()
- ・消印()
- ・筆跡()
- ・過不足()
- ・甘味処()
- ・依存症()
- ・壊死()

第 117 号の解答

◆国語の問題

問題1 次の口に漢字を一文字入れて熟語を完成しなさい。



◆社会の問題

問題1 平安時代の問題。

- ・794年、平安京遷都した天皇は…(桓武天皇)
- ・摂関政治をし、藤原氏の全盛期。藤原頼通の父は…(藤原道長)
- ・藤原頼通が京都の宇治に建立した寺は…(平等院鳳凰堂)
- ・上皇が国政を取る形態は…(院政)
- ・1086年、院政を開始した上皇は…(白河上皇)
- ・794年、京都に造られた都は…(平安京)
- ・894年、遣唐使を廃止した人は…(菅原道真)